

J R 総連通信

2024年9月5日 No.1769

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連） <http://www.jr-souren.com>

国土交通(沖縄北方)・復興部門会議にJR貨物労組とともに「鉄道貨物輸送の現状と課題」を説明

JR総連とJR貨物労組は、9月4日、立憲民主党「国土交通(沖縄北方)・復興部門会議」に出席し、「鉄道貨物輸送の現状と課題」と題して私たちの政策提言を訴え、意見交換を行いました。



JR総連はこの間、JR総連推薦議員懇談会共同代表であり、国土交通・復興部門長である衆議院議員・小宮山泰子氏と「2030年物流革新緊急パッケージの実現」などについて、職場現実をもとに意見交換をしてきており、私どもの考えを広く知ってほしいとの要望に応える形で、今回の意見交換が実現しました。

冒頭、JR伯備線における鉄道貨物輸送の維持・存続が決定したことに対するお礼と報告を行い、今後は「航空燃料輸送(SAF)」や「水素輸送」などの新たなエネルギー政策に寄与していくために、大量輸送が可能な鉄道貨物の優位性を訴え、港湾と鉄道の結節強化をはじめとするモーダルミックスの実現を通じて、ドライバー不足の解消を図っていくことなど、全国ネットワークだからこそ実現できる政策課題の構想について説明をしました。

同時に、こうした課題の実現には、過去、3.11東日本大震災時に緊急石油輸送を実現した教訓を紹介し、蓋然性が高い線区の定義をはっきりさせること、並行在来線の存続や国鉄改革時のスキームの維持が必要であることについても要請しました。

参加された議員からは、「東日本大震災の石油輸送の教訓は重要」「物流革新緊急パッケージも『絵に描いた餅』にならないようつっていききたい」「水素輸送の実現にむけて今後も協力していく」などの前向きな意見が述べられました。



階衆議院議員



小沼参議院議員



小宮山衆議院議員

くわえて、「既存制度の拡充(幹線鉄道活性化事業費補助等)」、「JR貨物会社に対する支援策」、「地方自治体のモーダルシフト推進政策の拡充等」についても活発な意見交換が図られました。

JR貨物の将来に責任を持ち、政策課題を実現することは、組織率9割を誇る責任組合の使命です。今後も職場の声に立脚した運動をJR貨物労組と取り組んでいきます！